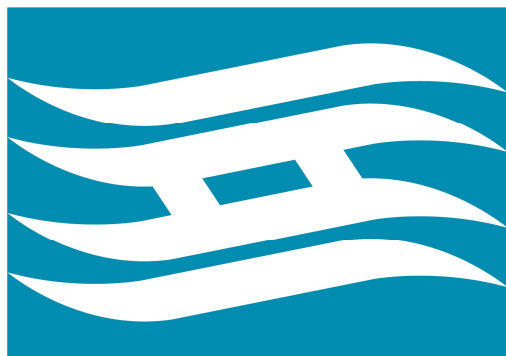


ひょうごウクライナ支援プロジェクト

～ひょうごは、ウクライナとともに～



×



ひょうごウクライナ支援プロジェクト

1 避難民の状況

(1) 来県状況 **60 組 117 名** (神戸市、姫路市、尼崎市、芦屋市、宝塚市、川西市、淡路市)
(うち6名出国)

(2) 県営住宅提供実績 **14 戸** (R5.3.31時点)

2 ウクライナ避難民等相談窓口相談件数 (実施主体：(公財)兵庫県国際交流協会)

相談内容			計
支援依頼	支援申出	その他	579件
414	151	14	

(R5.3.31時点)

相談例① (支援依頼)

住宅支援、生活支援、日本語教育、就労に関すること 等

相談例② (支援申出)

住宅・物資・就業機会の提供、通訳ボランティア 等

ひょうごウクライナ支援プロジェクト

3 ふるさとひょうご寄附金「ウクライナ緊急支援プロジェクト」

寄附状況 **4,882件** **76,819千円** (R5.3.31時点)

※募金箱の設置 (本庁舎、各県民局・県民センター等)

募金総額 **900,045円** (設置期間 R4.3.10 ~ 5.31)

4 ひょうごウクライナ避難民生活支援金 (実施主体：(公財)兵庫県国際交流協会)

支援内容		実績(R5.3.31時点)
生活準備のための一時滞在支援	最大 200千円/世帯	1,220千円/ 8世帯
生活開始のための一時金支給	500千円/世帯	14,500千円/29世帯
生活費(食費含む)	最大 1,440千円/世帯	11,760千円/30世帯
合計	最大 2,140千円/世帯	27,480千円/31世帯

ひょうごウクライナ支援プロジェクト

5 ウクライナ避難民への日常生活コーディネーターの設置

内容	支援実績 (R5.3.31時点)
・(特非)多言語センターFACILに配置したコーディネーターが、各種支援機関・市町等と調整しながら、避難民の暮らしへの日常支援を実施(通訳含む)	132件
・避難民に対して母国語等による電話での生活相談を実施(ウクライナ語、ロシア語)	69件

6 ひょうごウクライナ避難民支援 公民連携プラットフォーム

(実施主体：(公財)兵庫県国際交流協会)

○登録状況 **54法人・団体** (R5.3.31 時点)

活用中の物資等

AI翻訳機、生活用品、食料品、家電製品、住居、電子マネー機能付きカード(10万円チャージ分/世帯)、QUOカード(5千円/人)、就業機会の提供、イベント(コンサート等)への招待 等



AI翻訳機の提供

7 JICA関西センター宿泊施設の無償提供

○締結日 **令和4年7月14日(木)**

※JICAが同内容の覚書を締結するのは兵庫県が初めて

ひょうごウクライナ支援プロジェクト

8 日本語教育等

- (1) (公財)兵庫県国際交流協会が、文化庁の補助を活用し、避難民対象の日本語講座や支援者向けの研修会をオンラインで実施。

対象者	内容	実施時期	受講実績
ウクライナ避難民	・地域の方との交流に必要な入門期の日本語を学ぶ	R4. 8.22(月)～	3講座 8人
日本語学習支援者	・県内の受け入れ状況、支援体制 ・心理的なケアや支援に際しての留意点 ・日本語教育の実践例等	3回開催 (R4年) ①6/16(木) ②7/13(水) ③1/12(木)	①55人 ②42人 ③28人

- (2) 公共職業能力開発施設が日本語教育を含む職業訓練を実施。

実施機関	内容	実施時期	受講実績
県立神戸高等技術専門学院 (神戸YWCAに委託)	・日本で働くために必要な日本語、パソコンスキル、ビジネスマナーなどを身につける ・月10万円の生活支援給付金が支給される	R4.9.16(金) ～12.15(木) [3ヶ月]	4人

ひょうごウクライナ支援プロジェクト

9 こころのケア

県こころのケアセンターが、市町担当者等へオンデマンドで相談・助言に当たるほか、既存研修を活用し避難民を支援する専門職へオンラインで研修を実施。

研修名	開催日	受講実績
「被災者や被害者をささえるために ーサイコロジカル・ファーストエイド(PFA)を学ぶー」	R4.8.16(火)～17(水)	県・4市・1団体
「被害者や被災者の中長期の回復を支えるこころのケア ーサイコロジカル・リカバリー・スキル(SPR)ー」	R4.8.30(火)～31(水)	

10 情報共有・連携協力体制等

(1) ウクライナ避難民支援等庁内プロジェクトチーム

令和4年4月以降、6回実施。

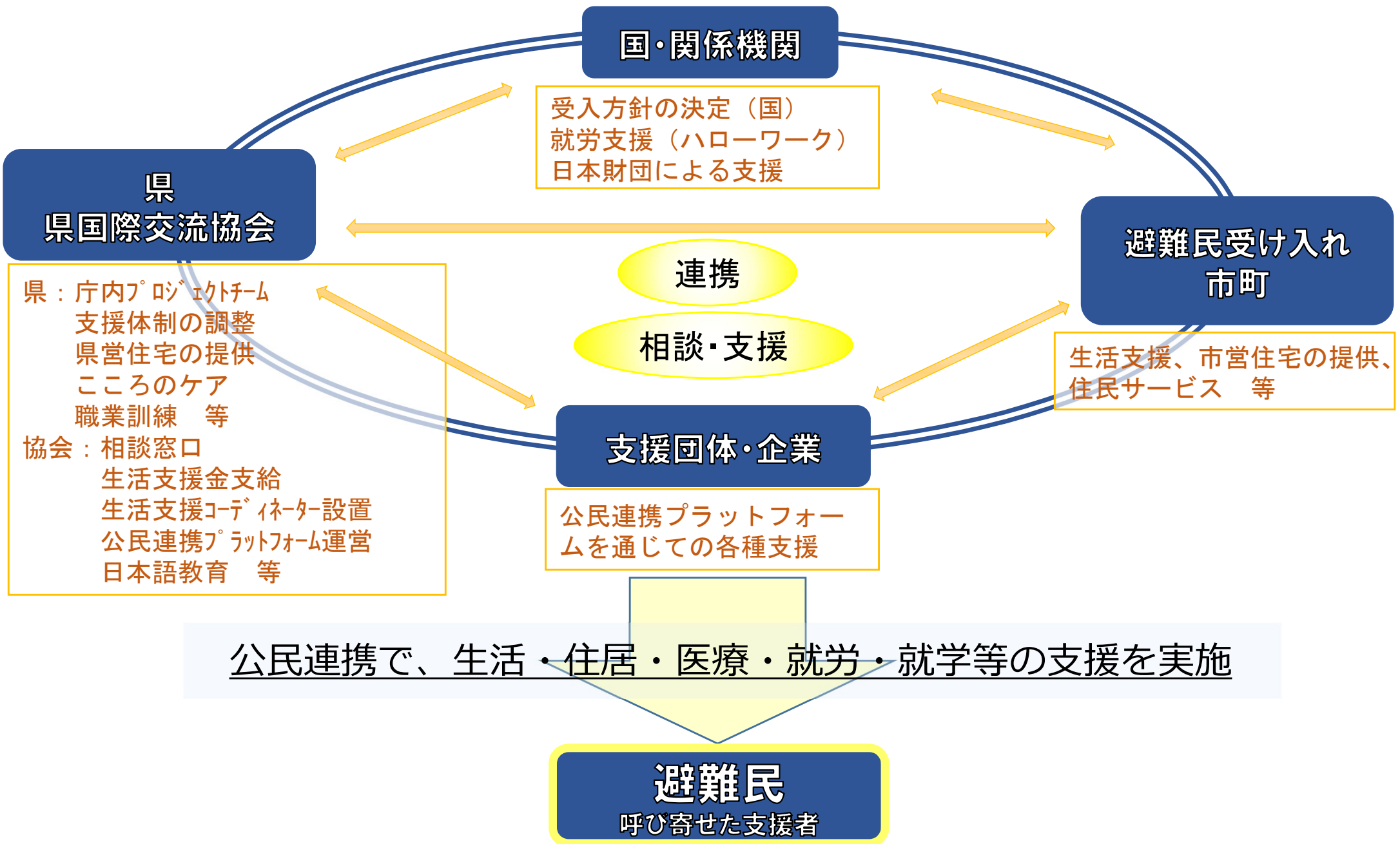
主な議題は、入国時の課題、支援の流れ、就労、日本語教育、心のケア、長期的課題 等

(2) ウクライナ避難民等支援連絡会議

令和4年3月以降、8回実施。

主な議題は、入国時の課題、支援の流れ、件の支援施策および実施状況、国等の情報提供、避難民受入市町の状況と課題 等

ひょうごウクライナ支援プロジェクト



<今後の課題>

個人の状況に応じた支援など、長期化・広域化・個別化への対応が必要。

- ①国・県・市町・支援機関等による、情報共有と連携協力の継続
(きめ細かい支援、支援漏れ・支援格差を防止)
- ②長期化を視野に、日本語教育、就労支援、コミュニティ形成等を支援

- ・ 中長期的な県内居住に向けてウクライナ人コミュニティの形成が重要
- ・ 現在、支援団体の活動に在住ウクライナ人がボランティアで参加するなど、自然発生的に徐々にコミュニティ形成が広がっている
- ・ 県としても、ひょうごウクライナ支援プロジェクトの中で交流機会の提供等、市町の取組み支援等により側面的支援を推進